

足立区

景観形成のための
基準
(色彩編)

平成31年4月

足立区

発行：足立区都市計画課
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111 (代表)



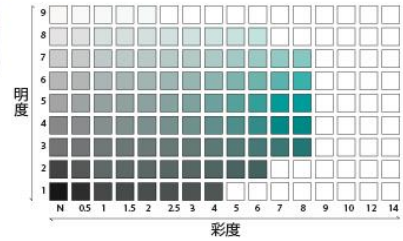
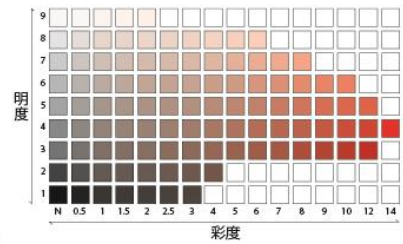
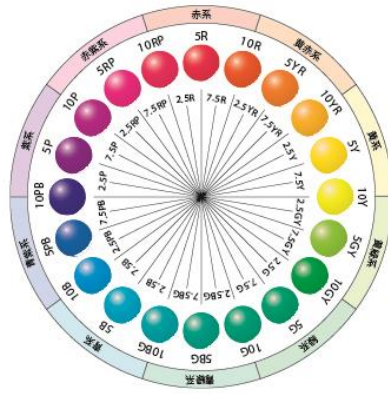
再生紙を使用しています

1 マンセル表色系を尺度とした定量的な色彩基準の設定

●マンセル表色系

私たちは一般に色彩を、赤や青、黄などの色名で表現します。しかし、色名による表現は捉え方に個人差があり、ひとつの色を正確かつ客観的に表すことはできません。

足立区景観計画では、公平性のある色彩景観づくりを進めるため、日本工業規格などにも採用されている国際的な尺度である「マンセル表色系」を採用した定量的な色彩の基準を定めます。「マンセル表色系」ではひとつの色彩を「色相（いろあい）」、「明度（あかるさ）」、「彩度（あざやかさ）」という3つの尺度の組み合わせによって表現します。



色相（マンセル色相環）

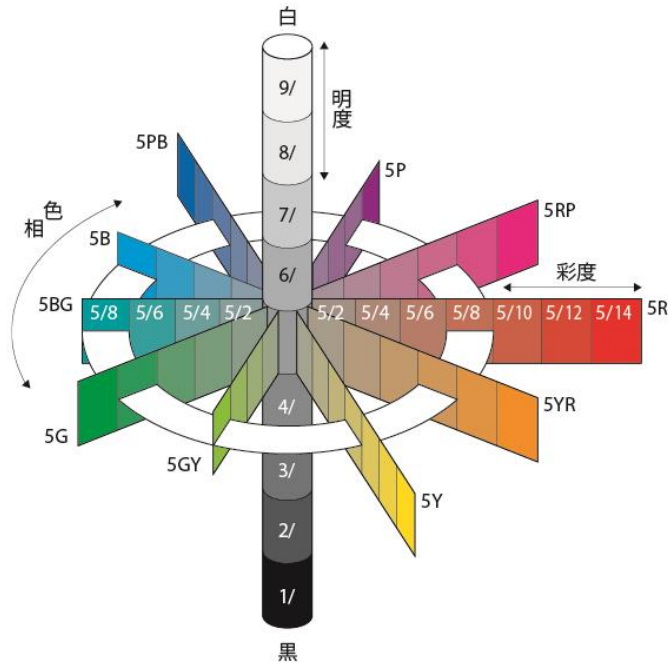
明度（あかるさ）と彩度（あざやかさ）

●色相

色相はいろあいを表します。10種の基本色（赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫）の頭文字をとったアルファベット（R、YR、Y、GY、G、BG、B、PB、P、RP）とその度合いを示す0から10までの数字を組み合わせ、10R や5Y などのように表記します。また、10RP は0R、10R は0YR と同意です。

●明度

明度は明るさを0から10までの数値で表します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなり10に近くなります。実際には、最も明るい白で明度9.5程度、最も暗い黒で明度1.0程度です。



マンセル表色系のしくみ

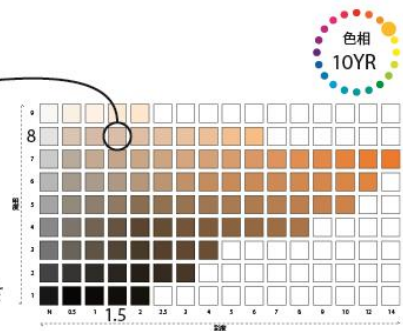
●彩度

彩度は鮮やかさを0から14程度までの数値で表します。色味のない鈍い色ほど数値が小さく、白、黒、グレーなどの無彩色の彩度は0になります。逆に鮮やかな色彩ほど数値が大きく赤の原色の彩度は14程度です。最も鮮やかな色彩の彩度値は色相によって異なり、赤や橙などは14程度、青緑や青などは8程度です。



10YR 8.0 / 1.5

色相=色合い 明度=明るさ 彩度=鮮やかさ
10ワイアール 8.0 の 1.5



マンセル表色系による色の表し方

※この冊子ではできるだけ正確な色再現を心がけましたが、印刷物によるため、実際のマンセル値と図版等の色彩が異なる場合がありますのでご注意ください。

2 色彩基準の設定にあたっての考え方

建築物等の色彩基準は、東京都景観計画の色彩基準を継承しつつ、次の2点を踏まえ設定しています。

- 区内の建築物等の現況調査結果をふまえ、YR(黄赤)系やY(黄)系などの暖色系色相を中心に誘導を図り、その鮮やかさは中・低彩度の範囲に収まるよう規制・誘導します。
- 都市化した本区において貴重な景観資源となっている緑が映える景観とするため、建築物等の基調色は最も鮮やかなものでも植物の葉の色と同等の彩度6までの範囲に抑えます。

(1) 区全域(特別景観形成地区を除く)における色彩基準

建築物の規模に応じた色彩基準を適用します。

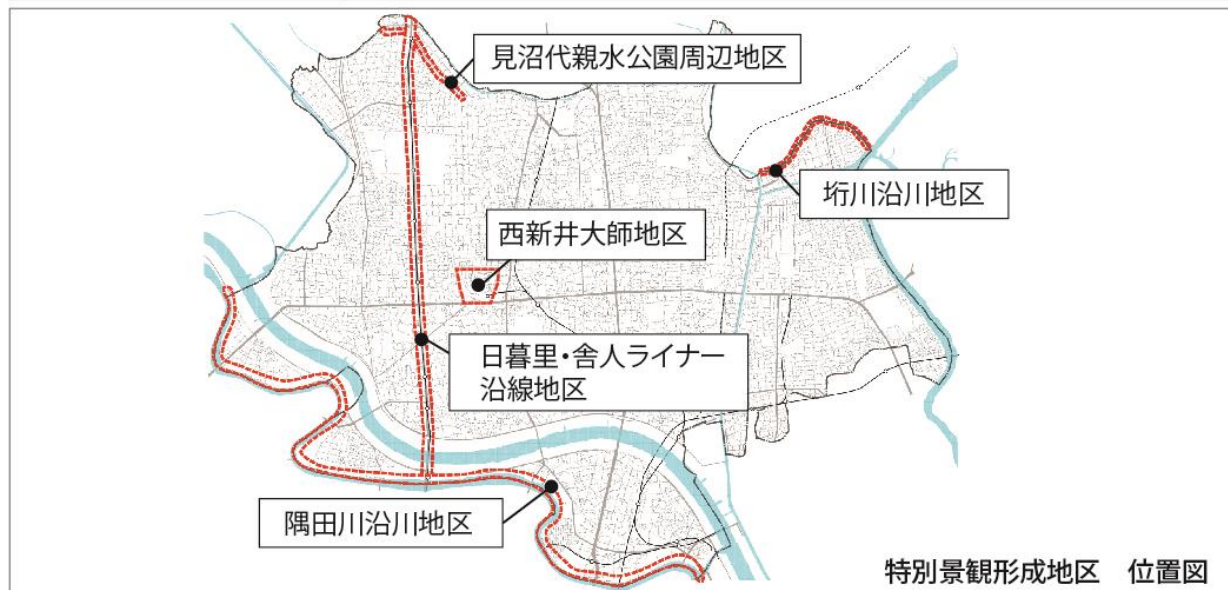
建築物の規模	基本的な考え方
一般建築物	外壁は周辺からの突出を避け、まち並みと調和する色彩を基調とします。
一定規模以上の建築物	外壁は、落ち着きを感じられ、水や緑などの存在や周辺のまち並み景観を妨げないように配慮し、中彩度までの色彩を基調とします。
大規模建築物等	外壁は、落ち着きを感じられ、水や緑などの存在や周辺のまち並み景観を妨げないように配慮し、中彩度までの色彩を基調とします。

(※)各規模の詳細については4ページを参照

(2) 特別景観形成地区における色彩基準

各地区の特性に応じた色彩基準を適用します。

対象地区	基本的な考え方
隅田川沿川地区	隅田川の水面に映える景観を形成するため、外壁や屋根は暖かく落ち着いた色彩を基調とします。
日暮里・舎人ライナー沿線地区	車窓からの景観に配慮し、外壁や屋根は暖かく落ち着いた色彩を基調とします。
堀川沿川地区	遊歩道に連続する自然林の景観に配慮し、外壁や屋根は落ち着いた色彩を基調とします。
見沼代親水公園周辺地区	見沼代親水公園の水と緑に配慮し、外壁や屋根は落ち着いた色彩を基調とします。
西新井大師地区	西新井大師の歴史と文化、「和風」の意匠に配慮し、外壁や屋根は落ち着いた色彩を基調と



■ 各地区の色彩基準

各地区の色彩基準は下表のとおりです。表中のローマ数字は5～9ページの色彩基準に対応しています。太枠内は景観形成基準(景観法第8条第3項第2号関係)です。

種類・規模 対象区域	一般建築物	一定規模以上の建築物	大規模建築物	工作物
	一定規模以上の建築物及び大規模建築物に該当しない小規模な建築物	高さ15m以上または延べ面積1,000m ² 以上の建築物、足立区環境整備基準対象建築物等のいずれかで、かつ大規模建築物に該当しない	高さ45m(西新井大師地区では高さ28m)以上または延べ面積15,000m ² 以上の建築物	高さ15m以上または延べ面積1,000m ² 以上の工作物
区全域 (特別景観形成地区を除く)	I	II	III	III
特別景観形成地区	隅田川沿川地区	I	IV	IV
	日暮里・舎人ライナー沿線地区	I	IV	IV
	垢川沿川地区	II・I ※1	II	III
	見沼代親水公園周辺地区	II・I ※1	II	III
	西新井大師地区 左:大師境内・門前・門前入口エリア 中:大師前・北参道・沿道エリア 右:一般エリア	V・IV・I	V・IV・II	V・IV・III ※2

※1 垢川沿川地区は垢川及び公道、見沼代親水公園周辺地区は見沼代親水公園及び公園に接する公道に面する外壁面のみ色彩基準IIが適用されます。その他の外壁面は色彩基準Iが適用されます。

※2 沿道エリアの工作物は色彩基準IIIが適用されます。

■ 建築物等による創造的な景観形成を妨げない弾力的な運用

足立区らしい暖かさや落ち着き、品格などは、区の特性を踏まえた色彩基準によって、建築物等の色彩を制限することにより創出されます。一方、極端な制限によって、建築物等の積極的なデザインによる創造的な景観形成を妨げることがないように、大規模建築物においては、強調色やアクセント色の考え方(7ページ参照)を導入し、弾力的な運用に配慮します。

一定規模以上の建築物等の色彩基準における面積比の考え方

届出に必要な規模要件を小さくしているため、基調色の制限のみとし、にぎわいを創出するための色彩は低層部を中心に外観の1/5以下の面積で用いることとしています。

基調色
外壁面積の4/5以上

外観の1/5以下は
適用除外

大規模建築物等の色彩基準における面積比の考え方

基調色
外壁面積の4/5以上

強調色
外壁面積の1/5以下

アクセント色
外壁面積の1/20以下


強調色+アクセント色
≤外壁面積の1/5

10m又は3階以下は
適用除外

色彩基準 |

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~9.9R	—	4.0以下
	0YR~5.0Y	—	6.0以下
	その他	—	2.0以下

凡例

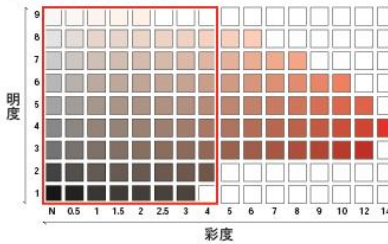
 外壁基調色の使用可能範囲
(外壁面積の4/5はこの範囲から選択)

- ◇外壁面積の1/5以下は、外壁基調色の基準に適合することを原則としますが、地域特性に応じてにぎわいの創出等が必要な場合などは、本色彩基準によらない色彩を使用することができます。
- ◇着色をしていない木材、土壁、ガラス、金属、瓦等の材料によって仕上げられる部分については、本色彩基準を適用しません。

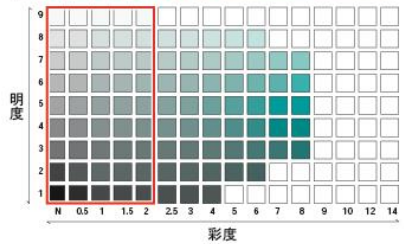
※

- ・各立面図の外壁面積（見付面積）の4/5は、本色彩基準による色彩を使用してください。
- ・地域特性に応じて本色彩基準によらない色彩を使用する場合は、外壁面積の1/5以下であることがわかるよう立面図に計算式等を記入してください。
- ・着色していない各材料についても、参考として近似値のマンセル値を立面図に記入してください。

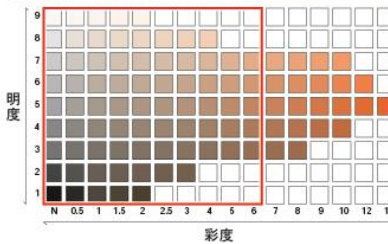
R (赤)系の色相



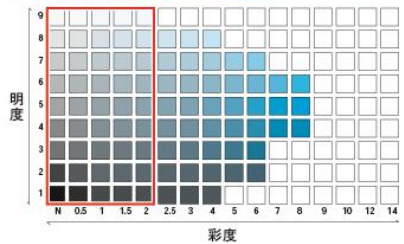
BG (青緑)系の色相



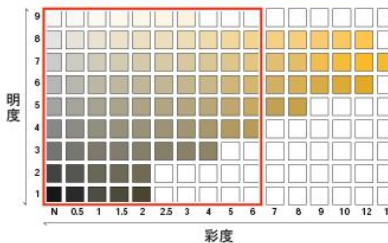
0YR~4.9YR (黄赤)系の色相



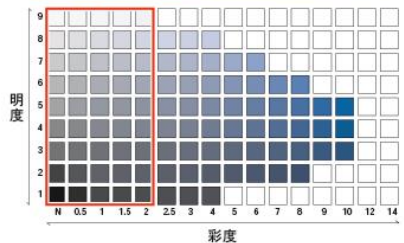
B (青)系の色相



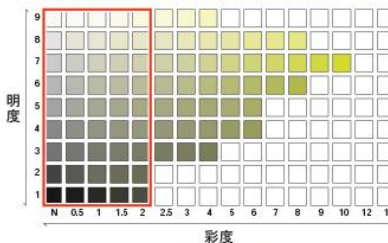
5YR (黄赤)~5Y (黄)系の色相



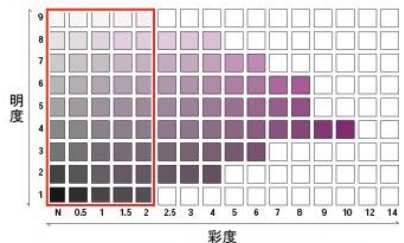
PB (青紫)系の色相



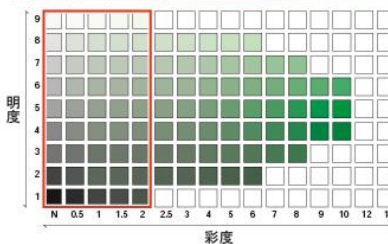
5.1Y (黄)系~GY (黄緑)系の色相



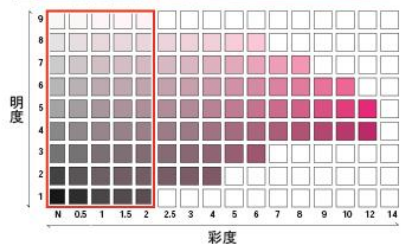
R (紫)系の色相



G (緑)系の色相





RR (赤紫)系の色相



色彩基準 II

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	OR~9.9R	3.0以上8.5未満の場合	4.0以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	OYR~5.0Y	3.0以上8.5未満の場合	6.0以下
		8.5以上の場合	2.0以下
屋根色	OYR~5.0Y	6.0以下	4.0以下
	その他	6.0以下	2.0以下

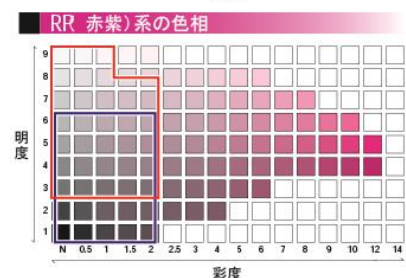
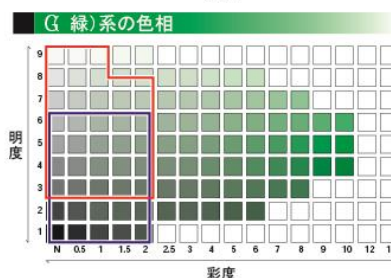
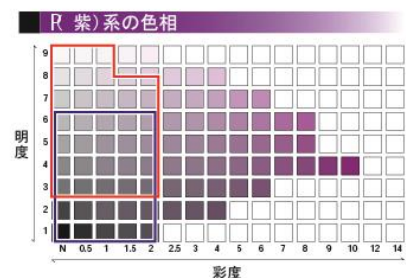
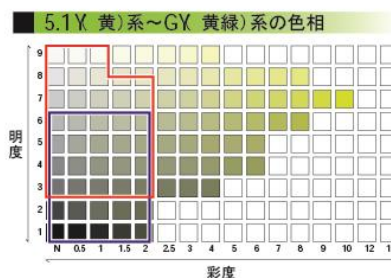
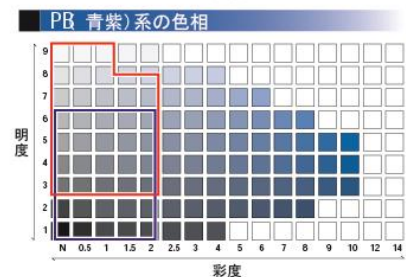
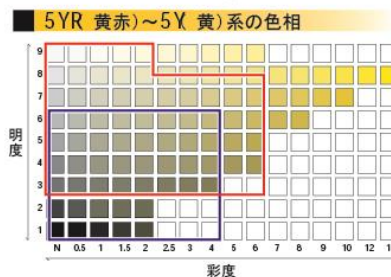
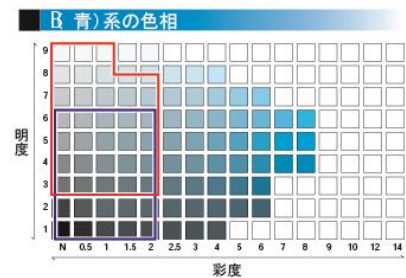
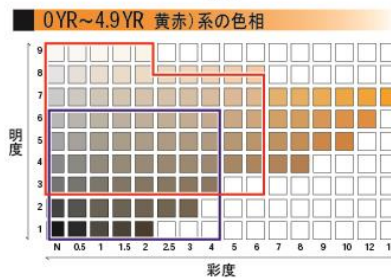
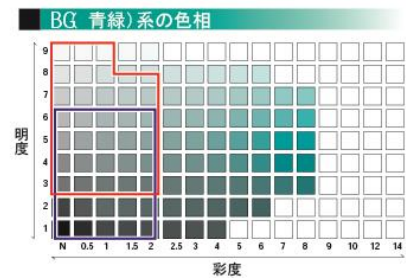
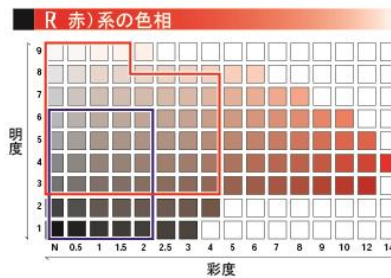
凡例

-  外壁基調色の使用可能範囲
(外壁面積の4/5はこの範囲から選択)
-  屋根色の使用可能範囲

- ◇外壁面積の1/5以下は、外壁基調色の基準に適合することを原則としますが、地域特性に応じてにぎわいの創出等が必要な場合などは、本色彩基準によらない色彩を使用することができます。
- ◇着色をしていない木材、土壁、ガラス、金属、瓦等の材料によって仕上げられる部分については、本色彩基準を適用しません。

※



- ・各立面図の外壁面積（見付面積）の4/5は、本色彩基準による色彩を使用してください。
- ・地域特性に応じて本色彩基準によらない色彩を使用する場合は、外壁面積の1/5以下であることがわかるよう立面図に計算式等を記入してください。
- ・着色していない各材料についても、参考として近似値のマンセル値を立面図に記入してください。



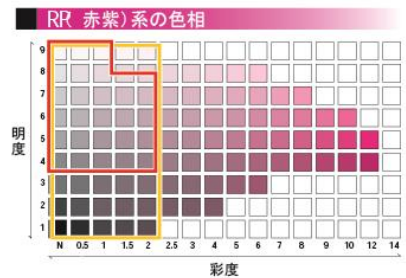
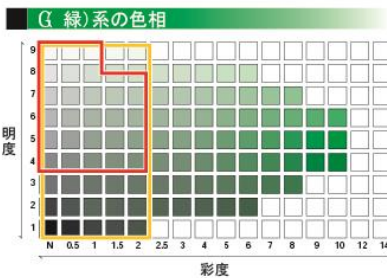
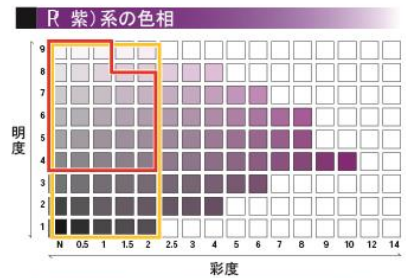
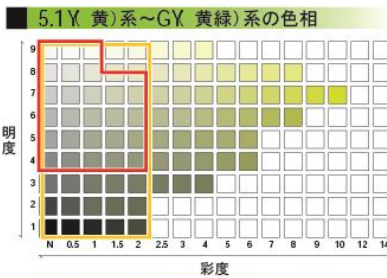
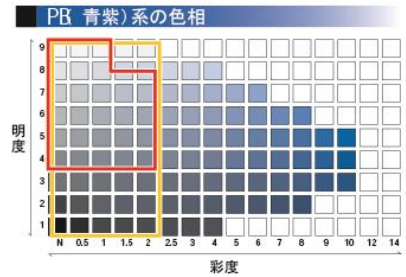
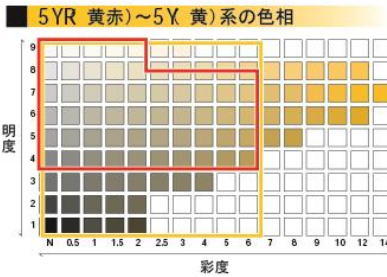
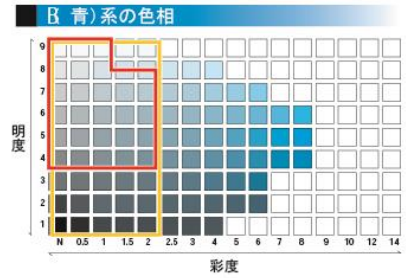
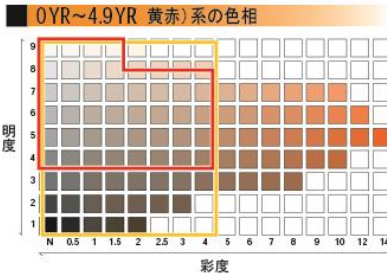
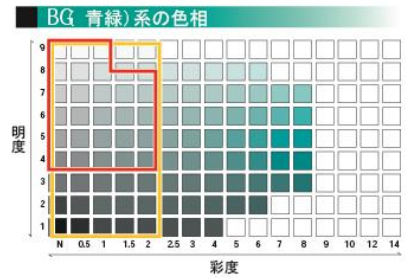
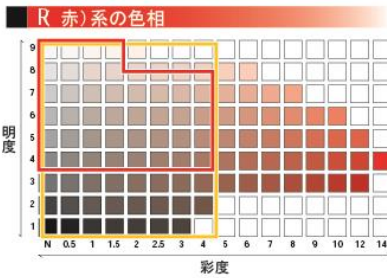
色彩基準 III

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~4.9YR	4.0以上8.5未満の場合	4.0以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR~5.0Y	4.0以上8.5未満の場合	6.0以下
		8.5以上の場合	2.0以下
その他	4.0以上8.5未満の場合	2.0以下	
	8.5以上の場合	1.0以下	
外壁強調色	0R~4.9YR	—	4.0以下
	5.0YR~5.0Y		6.0以下
	その他		2.0以下

凡例

-  外壁基調色の使用可能範囲
(外壁面積の4/5はこの範囲から選択)
-  外壁強調色の使用可能範囲
(外壁面積の1/5以下で使用可能)



- ◇外壁面積の1/5以下は、外壁基調色の基準に適合することを原則としますが、強調色の基準に適合した色彩を使用することができます。強調色の他に外壁に使用できるアクセント色は、本色彩基準によらない色彩を使用することができますが、その面積は高さ10 m又は3階以上の外壁各面の1/20以下、かつ、強調色と合わせて1/5以下とし、主に建物の中低層部で用いることとします。さらに、高さ10 m又は3階以下の低層部の外壁面は、地域特性に応じてにぎわいの創出等が必要な場合に限り、この基準によらない色彩を使用することができます。
- ◇着色をしていない木材、土壁、ガラス、金属、瓦等の材料によって仕上げられる部分については、本色彩基準を適用しません。



色彩基準Ⅳ

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	OR~4.9YR	4.0以上8.5未満の場合	4.0以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR~5.0Y	4.0以上8.5未満の場合	4.0以下
		8.5以上の場合	2.0以下
屋根色	5.0YR~5.0Y	6.0以下	4.0以下
	その他		2.0以下

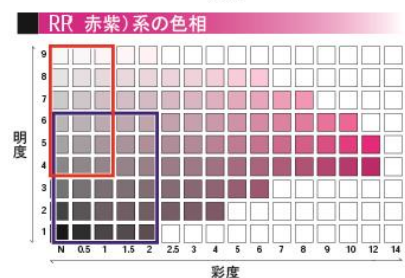
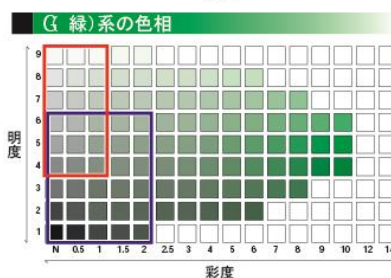
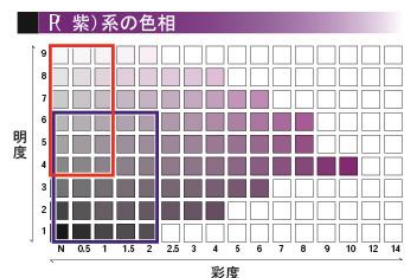
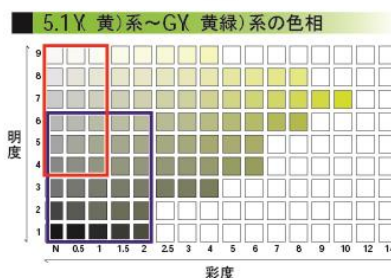
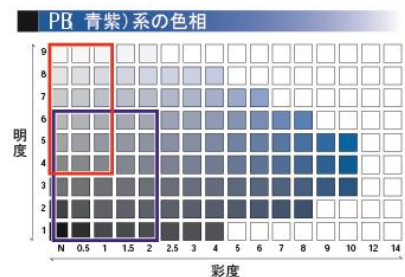
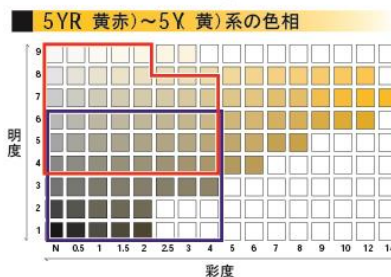
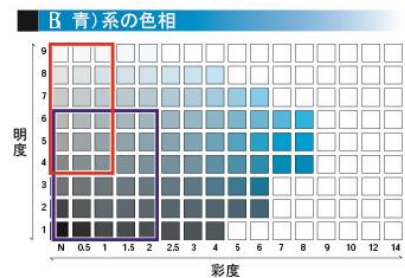
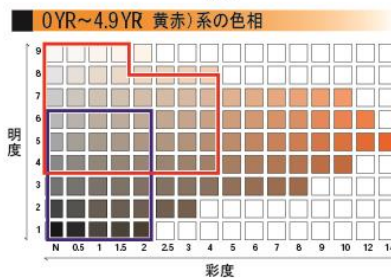
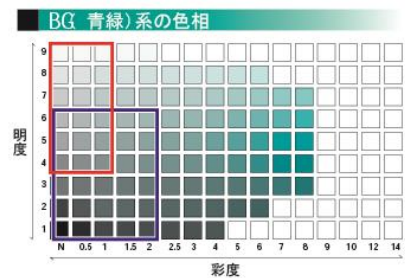
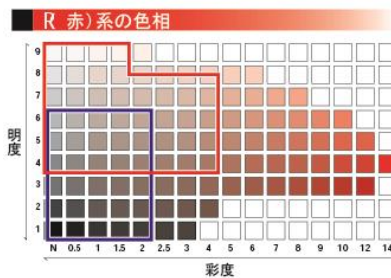
凡例

-  外壁基調色の使用可能範囲
(外壁面積の4/5はこの範囲から選択)
-  屋根色の使用可能範囲

- ◇外壁面積の1/5以下は、外壁基調色の基準に適合することを原則としますが、地域特性に応じてにぎわいの創出等が必要な場合などは、本色彩基準によらない色彩を使用することができます。
- ◇着色をしていない木材、土壁、ガラス、金属、瓦等の材料によって仕上げられる部分については、本色彩基準を適用しません。
- ◇大規模建築物等に該当するものは、本色彩基準とともに色彩基準Ⅲの強調色の考え方および基準についても適合することとします。
- ◇日暮里・舎人ライナー沿線地区において、高さ15mを超える部分の色彩については、外壁基調色及び屋根色の色彩基準範囲外の色彩の使用を極力避けることとします。




- ・各立面図の外壁面積（見付面積）の4/5は、本色彩基準による色彩を使用してください。
- ・地域特性に応じて本色彩基準によらない色彩を使用する場合は、外壁面積の1/5以下であることがわかるよう立面図に計算式等を記入してください。
- ・着色していない各材料についても、参考として近似値のマンセル値を立面図に記入してください。




色彩基準 V

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~5.0Y	4.0以上8.5未満の場合	3.0以下
		8.5以上の場合	1.5以下
屋根色	5.0YR~5.0Y	6.0以下	4.0以下
	その他		2.0以下

凡例

 外壁基調色の使用可能範囲
(外壁面積の4/5はこの範囲から選択)

 屋根色の使用可能範囲

- ◇外壁面積の1/5以下は、外壁基調色の基準に適合することを原則としますが、地域特性に応じてにぎわいの創出等が必要な場合などは、本色彩基準によらない色彩を使用することができます。
- ◇高さ28m以上または延べ面積15,000㎡以上の大規模建築物に該当するものは、上記の基準とともに色彩基準IIIの強調色の考え方および基準についても適合することとします。
- ◇着色をしていない木材、土壁、ガラス、金属、瓦等の材料によって上げられる部分については、本色彩基準を適用しません。
- ◇道路交通などの安全性の確保や、省エネルギーの実現のために必要な色彩、その他法令等で定められている色彩など、基準外の色彩を用いることが不可欠なものについては、この基準に拠らないことができます。
- ◇区民となじみが深く、地域のイメージの核となっており、地域のランドマークの役割を果たしているもの、歴史的・文化的景観として保全及び継承すべきもの、その他、良好な景観の形成に貢献するなど、本計画の実現に資する色彩計画については、景観審議会等の意見を聴取した上で、この基準によらないことができます。

